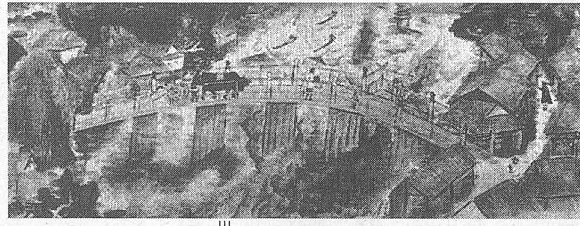


滅失絵画十選

美術家 中ザワ ヒテキ

▷3

速水御舟「洛外六題」より「宇治」(部分)



作っては壊し、同じ作 御舟の初期名作、「洛外風に安住しなかつた速水 六題」が滅失している。

大正六年(一九一七年)の再興第四回日本美術院展は本作の賛辞で持ちきりだった。鑑査員はびりと仕事を止めて只此作に見入つた。稀有のことである。横山(大観)先生は繪の前に坐られて、旨いなあと心から欣んだ」と、幹部の一人が伝えている。審査を一時中断、祝杯が挙げられたとの逸話も残る。

画面は柔しげな南画風で、迫真的というよりはヘタウマ的なウマさ。これにより御舟は二十三歳で同院会員となった。ところが三年後、ウマの面影は無い。いや、同作を焼き焦がした炎、御舟の心の内なる炎だったのか。(一九一七年、紙本彩色、全体は「巨掠」御舟曰く「梯子の頂上に登る勇氣は貴い。更にそこから降りて来て、再

び登り返す勇氣を持つ者は更に貴い」。自己の否定も厭わない覚悟か。はたして三年後、関東大震災で初期作の多くを失う。「洛外六題」は横浜の美学家、中村房次郎の所蔵だったが焼失。そして二年後、日本画の白眉「炎舞」を描く。炎に戦が舞う妖しく夢幻的な作風に「洛外六題」の面影は無い。いや、同作を焼き焦がした炎、御舟の心の内なる炎だったのか。(一九一七年、紙本彩色、全体は「巨掠」御舟曰く「梯子の頂上に登る勇氣は貴い。更にそこから降りて来て、再

●速水御舟

日本画。岸田劉生との比較。

新南画動向=ヘタウマ、執拗な写実=うまうま=マニエリスム。

中ザワ 滅失絵画十選 (3) 速水御舟

日本経済新聞 2007年7月2日

●黒田清輝

洋画。西洋受容。

新派=外光派=むらさき派。折衷的アカデミズム。

中ザワ 滅失絵画十選 (1) 黒田清輝

日本経済新聞 2007年6月28日

●中村不折

洋画。和魂洋才(日本の文物や宗教を油彩で描く系譜)。

形態画派=荘重。

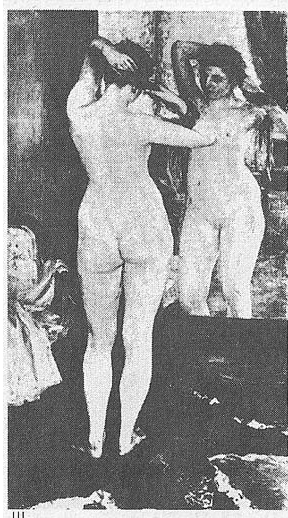
中ザワ 滅失絵画十選 (7) 中村不折

日本経済新聞 2007年7月9日

滅失絵画十選

美術家 中ザワ ヒテキ

▷1



黒田清輝「朝妝」

焼失や破壊等、物理的会的事件だった。その当理由で滅失した絵画がある。実物はこの世にすでに無いが、かつて有ったその事実は消せない。

◇ 朝妝 事件は、日本明治美術会展にも出品したが、政府主催の第四回御役目辞退と息巻いた。

内閣勸業博覧会への出品の可否が問題となった。二等賞を授けられたが、大鏡の使用による全裸像の非難、世論も同調した。布で絵の一部が隠されたとの伝聞はウソのようだが、別室隔離、巡査付き理屈が何処に有る」。

「(非公式な)春画と見做す理屈が何処に有る」。

「人間の形を研究するな」と(いつどこか)。

黒田は審査官でもあった。黒田の絵も、以後は生硬さが増すか、小品化してしまふ。おおらかな大画面としては、本作が最後で最高の達成だった。

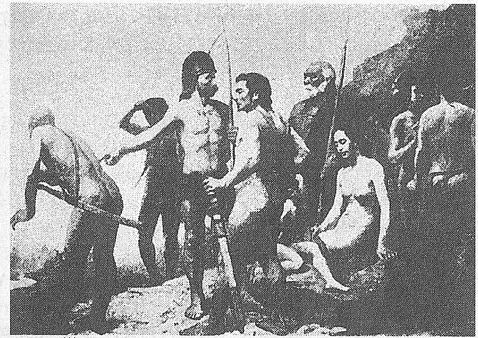
住友本家の須磨別邸を飾っていたが、太平洋戦争の神戸大空襲で建物とともに焼失。同地は現在の須磨海浜公園である。

(一八九三年、油彩、カンバス、一七八・八×九八・五寸、戦災で焼失)

滅失絵画十選

美術家 中ザワ ヒテキ

▷7



中村不折「建国勅業」

男女の裸群は皇国建設のイメージに重ねられて業」が滅失している。

本作は一九〇七年の東京府勸業博覧会で一等金牌を受賞した。三等末席には青木繁「わだつみの宮」があつた。奇天烈は目に馴染まず、ともにも上古の神話を念頭に描かれた力作で、前者は叙事的、後者は抒情的。青木は審査結果に憤成す。後世、青木に味方倒、数年後に夭折した。

中村の受賞も曲折し、審査混迷を嫌う褒賞辞退。官僚からは「皇祖の事跡を蛮族の群の如くに描いた」と攻撃された。

「仮想の集団を画きたるもの」と中村は称したが、中央の座裸婦は天照した。(一九〇七年、油大御神だろ。日露戦争彩、カンバス、一五八×後の国威発揚ムードのな

その結果、出品され妙技の可否が問題となった。二等賞を授けられたが、大鏡の使用による全裸像の非難、世論も同調した。布で絵の一部が隠されたとの伝聞はウソのようだが、別室隔離、巡査付き理屈が何処に有る」。

「人間の形を研究するな」と(いつどこか)。

黒田は審査官でもあった。黒田の絵も、以後は生硬さが増すか、小品化してしまふ。おおらかな大画面としては、本作が最後で最高の達成だった。

住友本家の須磨別邸を飾っていたが、太平洋戦争の神戸大空襲で建物とともに焼失。同地は現在の須磨海浜公園である。

(一八九三年、油彩、カンバス、一七八・八×九八・五寸、戦災で焼失)